MSHARE

東ティモール民主共和国 広がる健康格差と医療サービスが 行き届かない僻地での活動

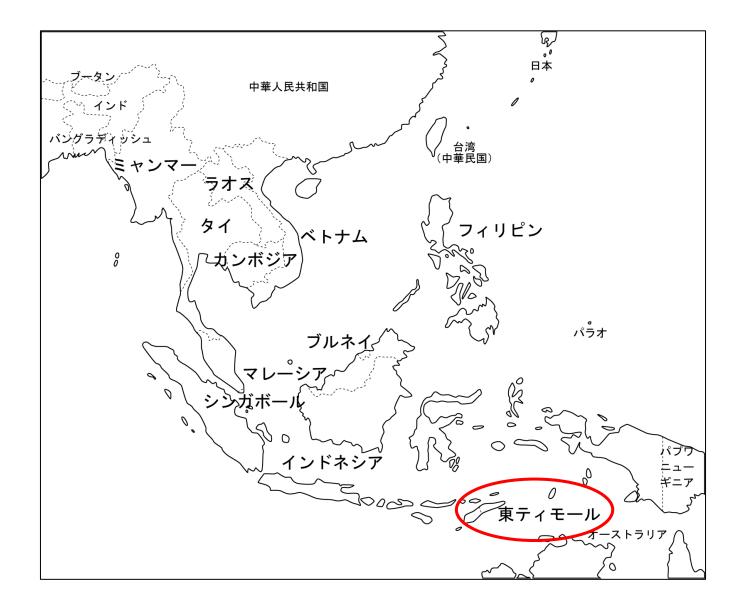
JICA月間特集:海外そして日本におけるシェアの取り組み

~誰もが保健医療にアクセスできる、全ての人が健康でいられる社会を目指して~

(特活)シェア=国際保健協力市民の会東ティモール事務所 ヘルスコーディネーター 柿本 彩

(看護師、保健師)

東ティモールの場所



東ティモールの概要

■面積:約1万5千平方キロ

■気候: 熱帯サバンナ気候(雨季・乾季)

■人口: 約120万人(約半数が18歳未満)

■人種: 大半がメラネシア系、その他マレー系、中華系

■言語: テトゥン語およびポルトガル語、インドネシア語

その他、30ほどの地方語

■宗教: キリスト教(大半がカトリック)99%

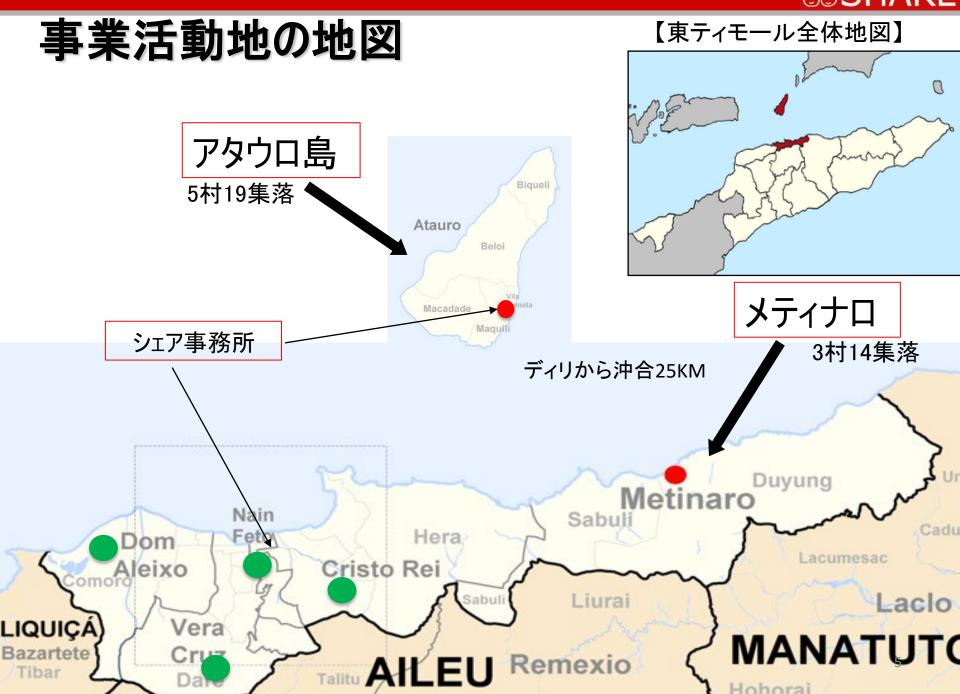
■産業:農業(コーヒー)、海底油田、天然ガス

■通貨:米ドル

東ティモールの歴史

- ■16世紀 ポルトガルによる植民地化(450年)
- ■1942年 日本軍が占拠(3年)
- ■1945年 ポルトガルが再支配
- ■1975年 独立宣言するも、インドネシア軍による強制併合
- ■1991年 サンタクルス事件(インドネシア軍による虐殺)
- ■1999年 住民投票(投票率98% 約80%が独立支持)
 - →インドネシア軍による破壊、虐殺
- ■2002年 国連による暫定統治を経て独立回復

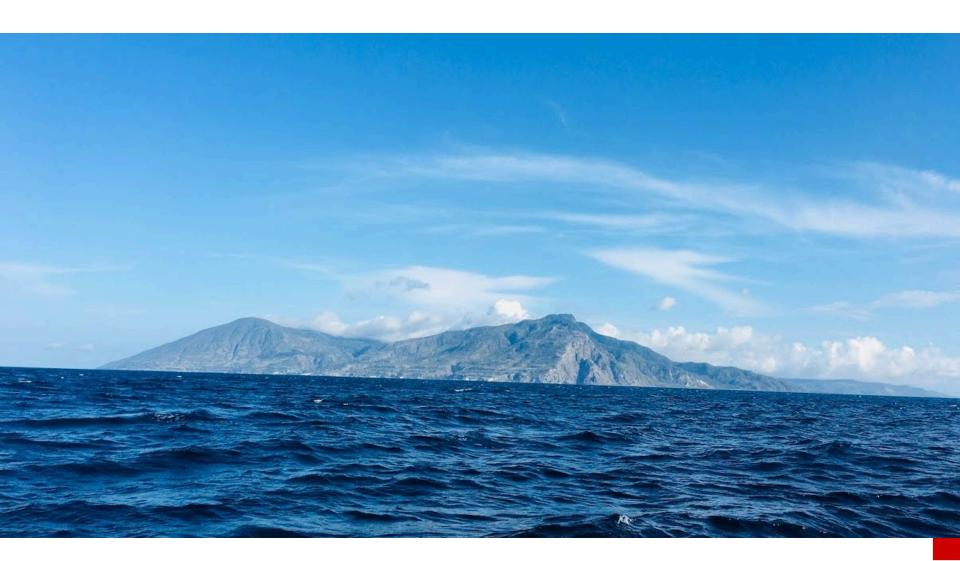
SHARE



東ティモール民主共和国 住民参加によるプライマリヘルスケア強化事業

- 活動地域:東ティモール ディリ県アタウロ郡(首都より船で3時間の島) およびメティナロ郡(首都より車で1時間の山間部)
- **活動パートナー**: ディリ県保健局、保健センター・ヘルスポスト の保健スタッフ
- ■活動内容:保健スタッフによる保健サービス提供能力向上を図り、 地域住民の健康増進をサポートする
- -保健スタッフの移動診療の支援(診察、予防接種、妊婦健診)
- -保健スタッフに対する技術研修(予防接種)
- -保健ボランティアの地域保健活動の支援(病気に関する紙芝居、栄養ゲーム)
- 対象者:地域住民(特に5歳未満乳幼児、妊産婦)

アタウロ島の風景

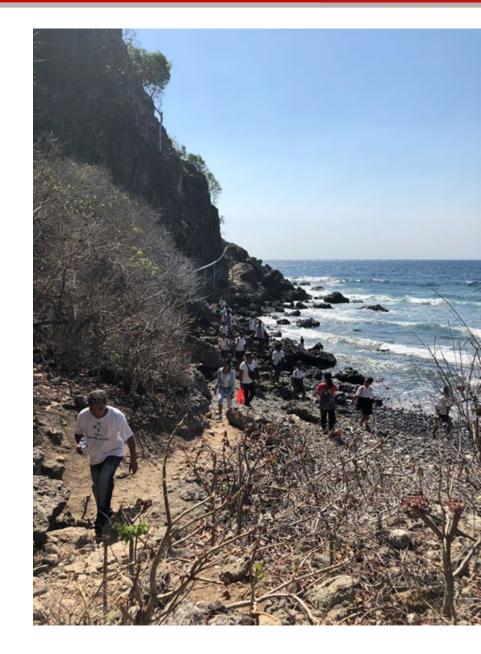






SHARE





基礎的保健サービスの利用率が低い

アタウロ郡

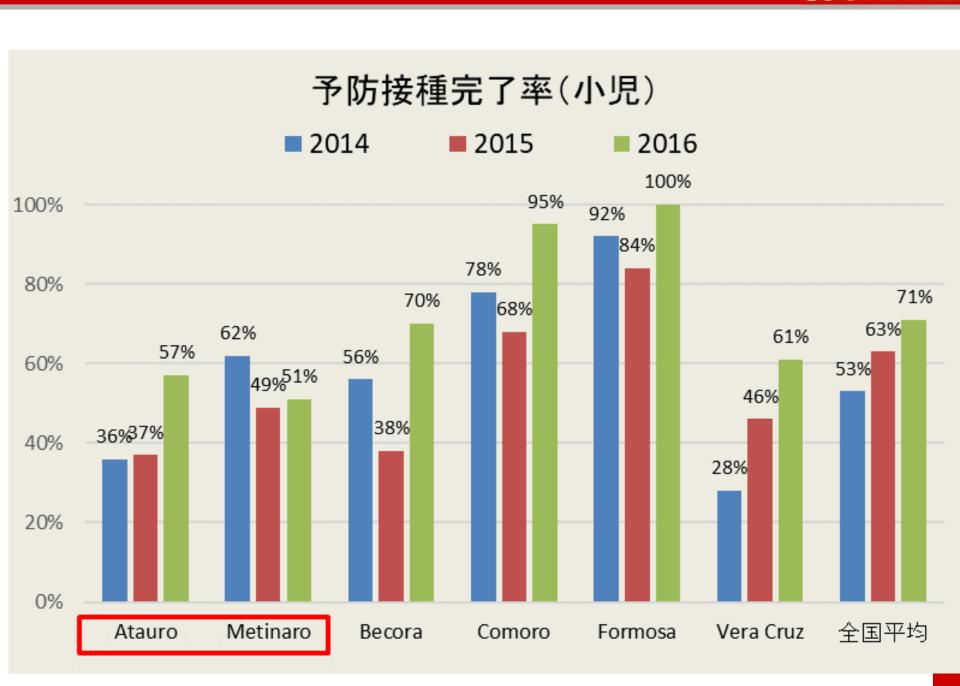
- •人口12, 105名(5村)
- •1保健センター、6ヘルスポスト
- ・離島(本島から船移動)で、陸路での交通手段が限られており公共の交通手段 は存在しない



船で医薬品や医療者を運び 行う移動診療



ヘルスポストの待合スペース



アタウロ島の健康格差 ~医療アクセスへの格差~

- 医療施設への物理的な距離
- ・ 限られた交通手段
- 保健スタッフの人材不足
- 保健医療情報の不足

ディリ県アタウロ郡地図

SISCa(月1回のアウトリーチ健診会場)

ヘルスポスト所在地





船舶を利用して沿岸部の集落へ保健医療を届けます



移動診療の様子です。赤ちゃんからお年寄りまで、みんな保健スタッフが来るのを待っています。



SHARE



村での移動診療の様子です。村では住民たちが集まって待っています。あおぞら診療所が開かれ、診察や予防接種が行われます。(写真右手前は医師)



島内で予防接種を提供できる場所は限られています



村人に情報を届ける保健ボランティアの育成





保健ボランティア学習会

保健ボランティアによる村人への健康教育



人々の健康を守る活動のためにこれからもお力をお貸しください。



